

郷土めぐり

## 八幡のオヤクッサン

上 平 井

「八幡のオヤクッサン」と呼ばれ、区民の皆様にご親しまれているこの寺は、薬師如来を御本尊とし、現世利益を祈願している薬王山法海寺と言う天台宗の古刹である。

広い境内には、樹齢数百年に及ぶ四本の楠の巨木が鬱蒼と茂り、平成四年落慶の本堂とが印象的な新旧のコントラストを作り、寺の往古の歴史

を物語っている。

寺伝によれば、

日本書紀の天智七年、新羅の僧道行が、熱田の宮の御神体「草薙剣」を盗み出したが、自国に持ち帰る事が出来ず、捕えられて石牢に幽閉された。時の

天智天皇の御不例もこの崇り

との諸郷の奉上を聞き届けられ釈放された。道行は帰国の念を捨て、清水の岡（八幡平井）に来て持念修法により靈感を得、薬師如来の尊像を彫み本尊とした。その後再度の帝の御不例も、この薬師祈願により平愈したため、この功により帝より勅額と寺領を下賜された。時に天智七年で寺の創建（六六八年）である。

以降、淳和天皇に至る十三代の勅願寺であったと伝えられている。

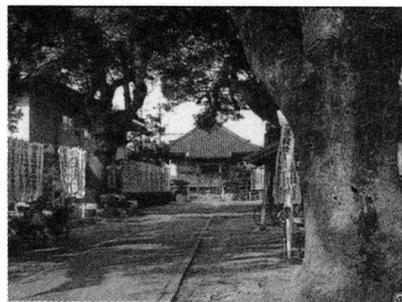
この歴史の裏付けが近年になって発掘発見されている。

◆剣の行方 盗難に会った草薙剣は十八年間宮中に祭られたが、天武天皇の朱鳥元年に熱田の宮に返還された。この喜びの神事が「酔笑人神事」として伝承されている。

◆古瓦の出土 白鳳期の蓮華文瓦等が境内地より出土。

◆平成三年の発掘調査に、弥生人の仰臥伸展葬のミイラ三体が出土、年代測定結果で、二〇七〇〜二三二〇年前と判定され、本州弥生人形成を検討する貴重な資料となる。

◆平成四年本堂再建 以前の



薬王山 法海寺

本堂は寛文四年の建立で、平成再建では木口等すべて旧様に復元している。

◆井戸のぞき 創建以来の關ヶの井戸が大乗院境内にあり毎年六月一日には「井戸のぞき」と云われ、お水取が行われている。

◆古式修法、正月の修正会、六月のお水取、十月の薬師大祭、十二月の除夜行事が、古式に則り伝承されている。

◆寺宝の文化財 十一点に及ぶ県、市指定の重要文化財を保有し、毎年七月二十日に曝涼会として一般公開している。この様な、宗教的でも文化史的な古刹の存在は、地域の誇りであり、これを後世に伝承させるためにも、今後皆様のご支援をお願いします。